

平成30年 5月30日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370055

研究課題名(和文)ルーイーパーダ流「成就」実践の研究 - チベットにおける受容と展開の解明 -

研究課題名(英文)Studies on the sadhana-practice of Luyipada School in Tibet

研究代表者

桜井 宗信 (Sakurai, Munenobu)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：30292171

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は次の2点に纏められる：(1)サチェン以下のサキヤ派五祖及びプトゥンの著したルーイーパーダ流関連7文献の校訂テキスト及び訳註を整定し、その一部は雑誌掲載論文として発表した。(2)(1)に基づき、チベットにおける同流の相承経過に関する伝承内容を確認すると共に、主に曼荼羅観想法の内容から看取される各書の特徴を明確化して3編の雑誌論文に纏め、チベット密教界におけるルーイーパーダ流の伝承と展開を探る一助とした。

研究成果の概要(英文)：The results of this research are as follows: (1)A critical text and annotated Japanese translation of 7 books belonging to Luyipada School on Cakrasamvaratantra cycle by the Sa skya pahi sgon lna and Bu ston Rin chen grub was made. (2)Based on (1) the characteristics of 7 literature mainly focused on their meditative generation of mandala were examined in 3 papers to make clear the way of the transmission and development of Luyipada School's practice system in Tibetan Buddhism.

研究分野：インド・チベット仏教

キーワード：サキヤ派 成就法 チャクラサンヴァラタントラ チベット密教 ルーイーパーダ流

1. 研究開始当初の背景

インド・チベット密教は種々の儀礼を通じて真実在との直接的合一を図ることをその基本的特徴とする。このような「合一の達成」はその方法とも合わせて多く「成就(サーダナ)」と呼ばれるが、その「成就」を目的とした儀礼 - 「成就法」の実践 - は、インドにおいて、様々な聖典に依拠した多くの論師・行者によって仏教滅亡の時点まで創出され続け、人気を博したものは「流派」という形態を取って広く流布したと考えられている。そして、一部はチベットへも伝えられ、現在までその命脈を保っている。

しかし、或る創始者により案出・独創された方軌は、それがたとえ師資相承を基本とした在り方を通じて受け継がれたものであっても、後代の新思想や社会的背景などの規定を受けて変容を余儀なくされるのが常である。そこに当該流派自体の持つダイナミズムが存在するとも言えるが、儀礼やその思想の解明を目指す際には、同一流派内であっても儀礼やその解釈の伝承に揺らぎがあったことを理解し、更にその要因を考察する必要がある。

そのような視座のもと本報告者(桜井)は、後期インド密教世界を代表する聖典の一つである『チャクラサンヴァラタントラ』を奉ずる著名な実践体系 ルーイーパーダ流 に注目し、現存する資料の文献学的考察を通じてインド亜大陸内におけるその展開過程を追い、同流実践の根本典籍である『チャクラサンヴァラアピサマヤ』(ルーイーパーダ著)及びブラジュニャーラクシタによる『同註』の梵文校訂テキストを整理・発表すると共にその成果を踏まえて上述「成就」の具体内容を明らかにする個別の考究を行った。

その結果、インドにおけるルーイーパーダ流の展開と変容が、ルーイーパーダを始点としながらも人脈の異なった複数の系統に別れて相伝され複数の系譜が生み出され

たことに起因すると理解された。その一方で平成21～23年度科研費補助金による研究基盤研究(c)「密教流伝史研究 - インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築 - 」におけるチベット人密教学僧達の『聴聞録』の解析より、チベットにおける同流の相承がサキャ派師資からプトゥンを経てツォンカパに到る1本の系譜において為されたことが明らかとなった。

ダライ・ラマ制度の母体であるゲルック派の始祖という立場からするならば、現代のチベット仏教にまで多大な影響を及ぼしているとも言えるツォンカパは、晩年サンヴァラ教学の解明に打ち込み多くの著作を残したことが知られているものの、その系統立った考究は今以後行われておらず、チベット密教学研究の重要な課題の一つである。

根本典籍の一つである『チャクラサンヴァラアピサマヤ』の梵文原典が参照可能になった以外に、サキャ派師資のルーイーパーダ流 所属資料が同一系譜上に位置付けられるという新たな知見を得たことにより、それらの記述の比較対象の結果が表面的な異同の確認に留まることなく、チベット密教世界における同流の実践体系の受容・展開経過を明確にする重要な視点を作り出し、密教史の全体像を理解する上での新たな指針となり得る。

2. 研究の目的

インドからチベットへ流伝した密教実践系統の代表的存在である上記 ルーイーパーダ流 に関して、サキャ派師資及びプトゥンが著した同流関連資料のテキスト整理・訳註を中心とした文献学的解析を行って、その異同を明らかにし、以て「チベット密教世界のメインストリーム」とも言うべき伝承系統の具体像を解明することを目的とする。

対象とする文献は、サチェン著『チャクラサンヴァラ註』、ソナムツェモ著『チャクラ

サンヴァラ供養儀軌』，タクパギエンツェン著『チャクラサンヴァラアピサマヤ註』，サパン著『サンヴァラ・ルーイーパーダの十万粒』，パクパ著『チャクラサンヴァラ成就法』2書，プトゥン著『チャクラサンヴァラ成就法』の7書である。

3．研究の方法

(1) 上記7書を版本或いは複写の形で入手し，パソコンを用いて各々のローマナイズドテキストを電子ファイル化した。その際に単なるトランスクリプションに留めず，原文におけるその有無に関係なく内容に即して分段し，適切な小見出しを付した。

また各書が引用する典拠を確定し，また並行文の確認をも行い，それらとの異同にも注意した上で，可能な限りオリジナルな読みの提示を図りながら校訂テキストを整定した。

(2) 整定した各校訂テキストを底本として和訳を行うと共に，各書間の相互関係に注意を払い，その依存・貸借関係を明確化する註記を施した。

(3) 上記(2)の成果に基づき，特に各書間で相互に異なっている記載に注目して，それらを整理，系統付けることにより，各書及びその著者の独自性を明確化すると共に，チベットにおけるルーイーパーダ流実践の変容状況を考察した。

4．研究成果

(1) 上記3の(1)・(2)に示した手順により，当該7書の校訂テキスト及び訳註を纏めた。そのうち『チャクラサンヴァラ供養儀軌』の校訂テキストは雑誌論文として発表し(下記5の)，また『サンヴァラアピサマヤ註』の一部についても訳註を発表し() 今後も逐次公表の予定である。

(2) 同じく(3)で述べたように，当該資料各書の特徴を明らかにして，それを3編の論文に纏めて発表した(下記5の ~)。

この中で明らかにし得た新たな知見の例として，“曼荼羅観想における被甲”の扱いが有る。即ちルーイーパーダ自身は『チャクラサンヴァラアピサマヤ』において“曼荼羅諸尊の三昧耶薩埵を観想してから被甲し，次に智薩埵を導入する”という次第を提示し，パクパやプトゥンもこれと同じ仕方を取る。それに対してタクパギエンツェンは著名なインド人密教学僧ナーローパの見解だとして“三昧耶薩埵を観想しそれに智薩埵を導入してから被甲する”という次第を示し，サパンもこれに賛同しており，サキャ派のゴル寺における伝統説として継承されている。この仕方は二種類の薩埵の合一をより堅固なものとする目的を持つとされるが，派祖であるルーイーパーダの見解であっても場合によっては変更を被る場合のあったことを明確に示している。

5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

桜井宗信，Grags pa rgyal mtshan 著 bDe mchog Lū hi pahi lugs kyi mon par rtogs pa bsgom pahi rim pa の原典研究 テキスト及び訳註(1) ，東北大学文学研究科研究年報，査読無，67，2018，pp.(55)-(89)

桜井宗信，bSod nams rtse mo 著 dPal hKhor lo sdom pahi mchod pahi cho ga の原典研究，東北大学文学研究科研究年報，査読無，66，2017，pp.(55)-(88)

桜井宗信，Bu ston の示す Cakrasamvara 観想法 rNaI hbyor bshi ldan を中心に ，転法輪の歩み，査読無，2016，pp.(149)-(164)

桜井宗信，サキャパンディタのルーイーパーダ流 理解 『サンヴァラ・ルーイーパーダの十万粒』を中心に ，密教図像，査読有，34，2015，pp.65-78

桜井宗信，Sa skya 派における LūyIpāda

流の伝承, 密教学研究, 査読無, 47, 2015, pp.1-13

〔学会発表〕(計2件)

桜井宗信, Sa skya 派師資の Cakrasamvarabhisamaya 理解を巡って 文献と伝承を中心に, 日本密教学会, 2014年11月7日, 種智院大学

桜井宗信, サパンのルーイーパーダ流理解 『サンヴァラ・ルーイーパーダの十万粒』を中心に, 密教図像学会, 2014年12月13日, 東大寺ミュージアム

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桜井宗信 (SAKURAI, MUNENOBU)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 30292171